



2023年3月期 第2四半期決算説明

2022年11月8日

 **ダイダン**株式会社

目次

連結業績サマリー

第2四半期決算ハイライト

通期業績予想

中期経営計画の進捗情報

サステナビリティへの取り組みについて

〈参考〉 DATA FILE

2023年3月期
第2四半期決算

連結業績サマリー

連結経営指標等（経営成績）の概要

(単位：百万円)

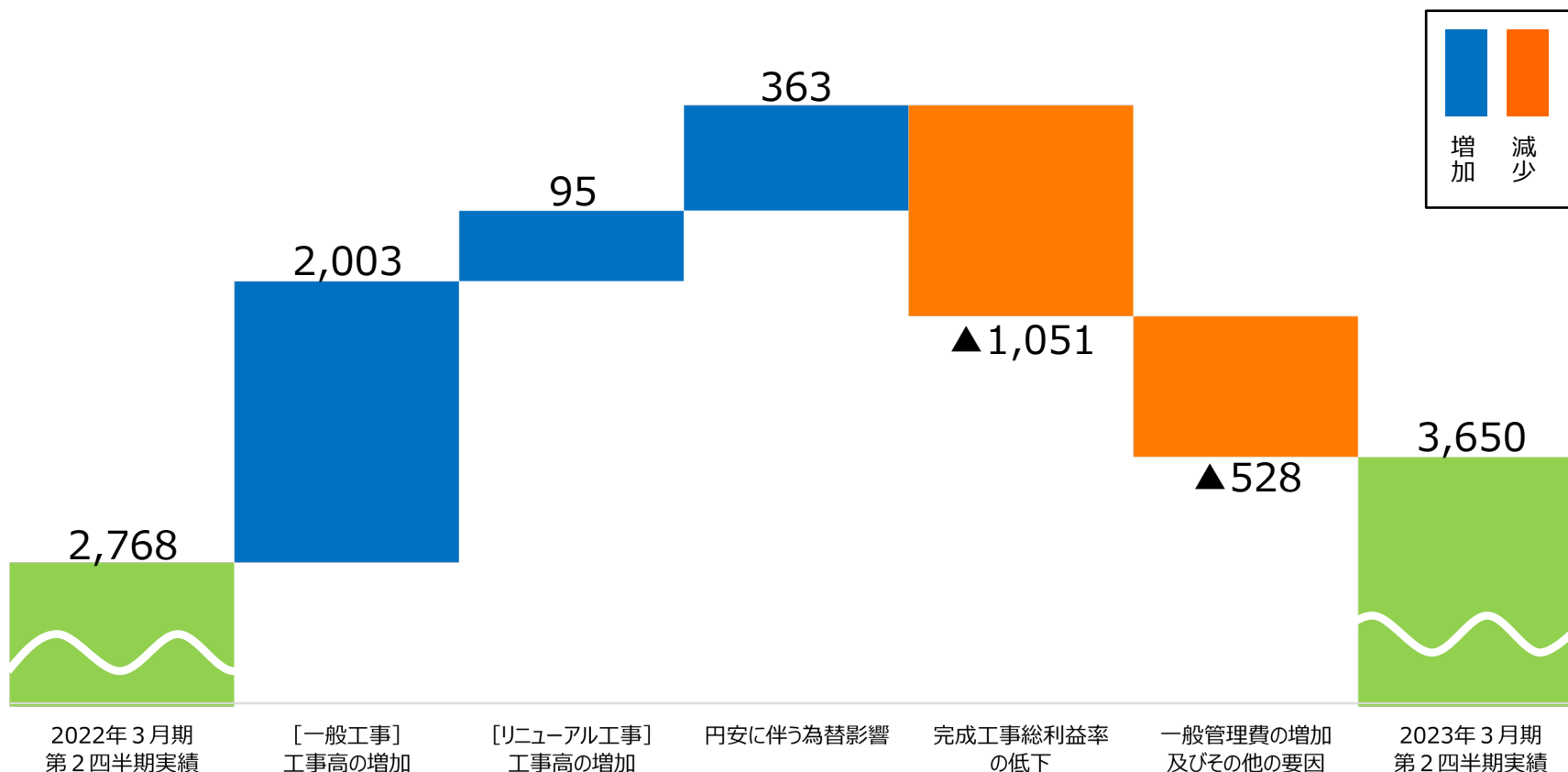
	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減	増減率
期首繰越工事高	143,043	163,782	20,738	14.5%
受注工事高	107,423	124,966	17,542	16.3%
完成工事高	65,780	82,690	16,909	25.7%
完成工事総利益	8,857	10,364	1,507	17.0%
完成工事総利益率(%)	13.5%	12.5%	▲0.9p	-
営業利益	2,768	3,650	881	31.8%
営業利益率(%)	4.2%	4.4%	0.2p	-
経常利益	3,044	4,330	1,286	42.3%
経常利益率(%)	4.6%	5.2%	0.6p	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,077	3,045	967	46.6%
四半期利益率(%)	3.2%	3.7%	0.5p	-

事業環境および当社の概要

- 受注工事高は、企業の設備投資意欲の回復を背景に、再開発案件や産業施設案件を中心に受注が好調に推移した結果、前期と比べ大幅に増加しました。
- 受注競争の激化や資機材価格の高騰により想定した利益改善が進まず、完成工事総利益率が低下しましたが、前期からの繰越工事および期中の受注工事の増加に伴う完成工事高の増加を受け、完成工事総利益は増加しました。
- 上記の結果、増収増益となりました。

連結営業利益増加の内訳

(単位：百万円)



- 一般工事の利益増加は、医療関連施設、空港および再開発などの大型工事が順調に進捗したことによります。また、リニューアル工事の利益増加は、工場・データセンターなどの大型工事が順調に進捗したことによります。
- 前期末から始まった急速な円安は当期においてもさらに進み、これにより在外支店の外貨建売上高が増加し、利益に寄与しました。
- 当期に進捗した工事において、受注競争の激化や資機材価格の高騰により想定した利益改善が進まず、完成工事総利益率は低下しました。

連結部門別工事高の推移

(単位：百万円)

		2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減	増減率	
受注 工事高	電気工事	12,340	18,647	6,306	51.1%	
	管工事	空調工事	70,667	78,799	8,132	11.5%
		水道衛生工事	24,415	27,519	3,103	12.7%
		小計	95,082	106,318	11,236	11.8%
	合計	107,423	124,966	17,542	16.3%	
完成 工事高	電気工事	10,418	13,970	3,551	34.1%	
	管工事	空調工事	38,630	49,091	10,461	27.1%
		水道衛生工事	16,732	19,628	2,896	17.3%
		小計	55,362	68,720	13,357	24.1%
	合計	65,780	82,690	16,909	25.7%	
繰越 工事高	電気工事	23,807	28,140	4,332	18.2%	
	管工事	空調工事	117,975	135,341	17,366	14.7%
		水道衛生工事	42,903	42,575	▲327	▲0.8%
		小計	160,878	177,917	17,039	10.6%
	合計	184,685	206,057	21,371	11.6%	

- 空港、データセンター、工場、海外のリゾート施設の熱源工事の受注などにより、電気・管工事ともに受注工事高は増加しました。
 - 空港や医療関連施設などの大型工事が順調に進捗したことにより、完成工事高は増加しました。
 - 前期からの繰越工事および期中の受注工事の増加により、繰越工事高は増加しました。
- ※管工事の内訳として、空調工事と水道衛生工事の区分を設けています。

連結経営指標等（財政状態）の概要

（単位：百万円）

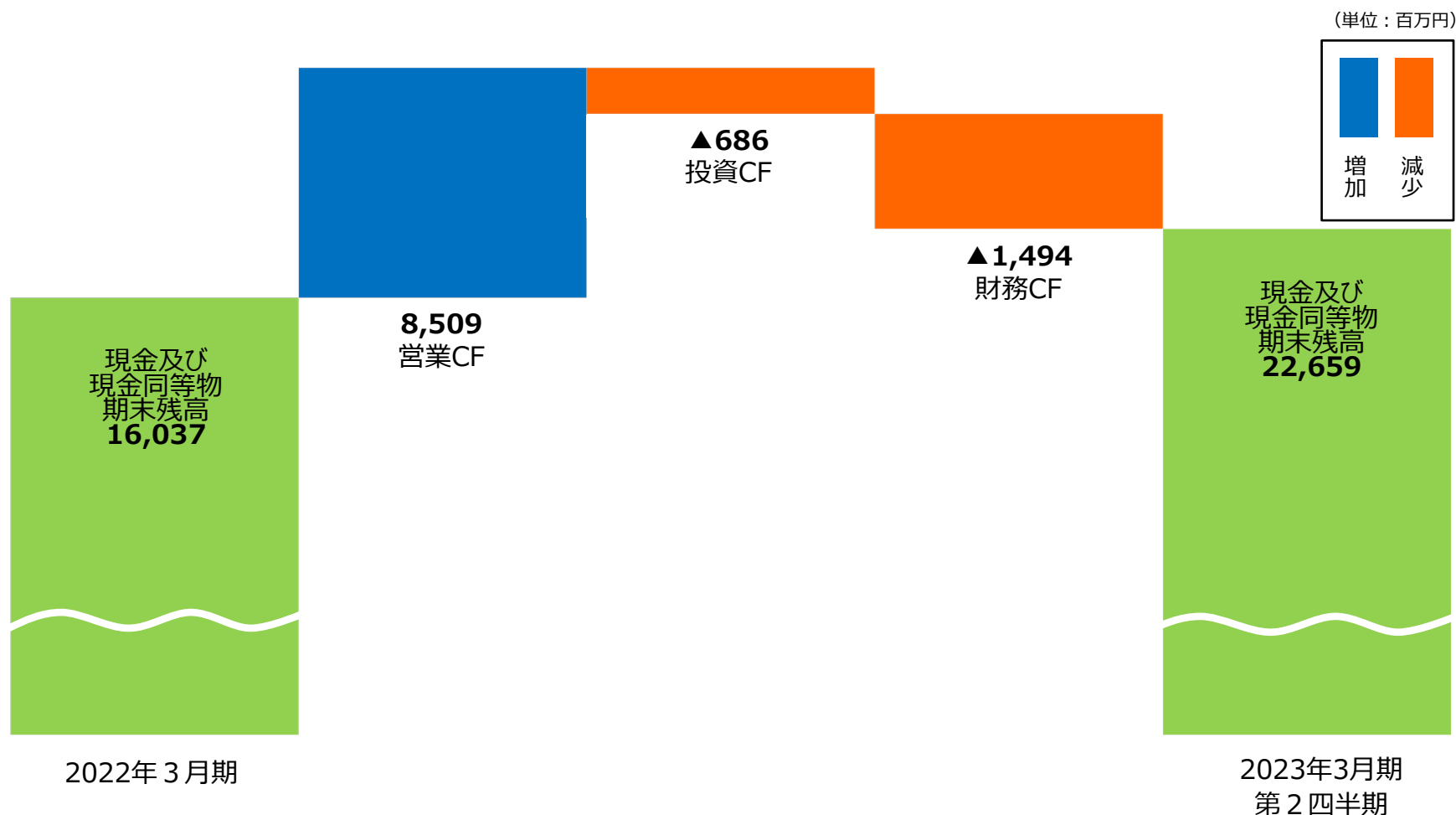
	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
純資産	77,242	79,055	1,813	2.3%	四半期純利益の計上が剰余金の配当を上回ったため
総資産	139,099	137,220	▲1,879	▲1.4%	前期に計上した債務の支払いによる
1株当たり純資産 (BPS)	3,603.11円	3,684.74円	81.62円	2.3%	
株価純資産倍率 (PBR)	0.58倍	0.58倍	—	—	(参考) 2022年3月 株価終値：2,099円 2022年9月 株価終値：2,141円
自己資本比率	55.4%	57.5%	2.1p	—	

連結経営指標等（キャッシュ・フロー）の概要

（単位：百万円）

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
営業活動によるCF	▲846	8,509	9,356	—	売上債権の回収が順調に進んだため
投資活動によるCF	▲945	▲686	258	—	北陸支店、技術研究所実証実験棟などの建替
財務活動によるCF	▲1,404	▲1,494	▲89	—	配当金の支払いのため
現金及び現金同等物の期首残高	31,747	16,037	▲15,710	▲49.5%	
現金及び現金同等物の増減額	▲3,203	6,621	9,824	—	
現金及び現金同等物の 四半期末残高	28,544	22,659	▲5,885	▲20.6%	

キャッシュ・フローの内訳（現金及び現金同等物期末残高の推移）



- キャッシュフローの内訳は、営業CF（売上債権の順調な回収）は増加し、投資CF（北陸支店、技術研究所実証実験棟などの建替）、財務CF（配当の支払）はそれぞれの要因により、減少しました。
- 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメントライン契約を締結しています。

2023年3月期
第2四半期決算

第2四半期決算 ハイライト

リニューアル・直接・官庁工事の状況

(単位：百万円)

	2022年3月期			2023年3月期	前期比	
	上半期	下半期	通期	上半期	増減	増減率
リニューアル工事	49,326	39,898	89,224	49,121	▲204	▲0.4%
リニューアル比率(%)	45.9%	52.3%	48.6%	39.3%	▲6.6p	-
大規模・中規模 の改修工事	33,014	21,591	54,605	23,578	▲9,435	▲28.6%
小規模 の改修工事	16,312	18,307	34,619	25,543	9,231	56.6%
一般工事	58,096	36,346	94,443	75,844	17,747	30.5%
受注工事高合計	107,423	76,245	183,668	124,966	17,542	16.3%
うち、直接受注	50,524	36,460	86,985	55,333	4,809	9.5%
直接比率(%)	47.0%	47.8%	47.4%	44.3%	▲2.8p	-
うち、官庁工事	21,127	10,275	31,403	12,381	▲8,746	▲41.4%
官庁比率(%)	19.7%	13.5%	17.1%	9.9%	▲9.8p	-

- リニューアル工事は、小規模案件は増加したものの、前期の大型案件受注の反動減により、前期比でほぼ横ばいとなりました。
- 一般工事は、国内の再開発や産業施設および海外の大型リゾート施設の熱源工事の受注により、前期比で増加しました。
- 直接受注の増加は、上記の産業施設工事や海外工事によります。
- 官庁工事の減少は、前期の大型案件受注の反動減によります。

産業施設工事の状況

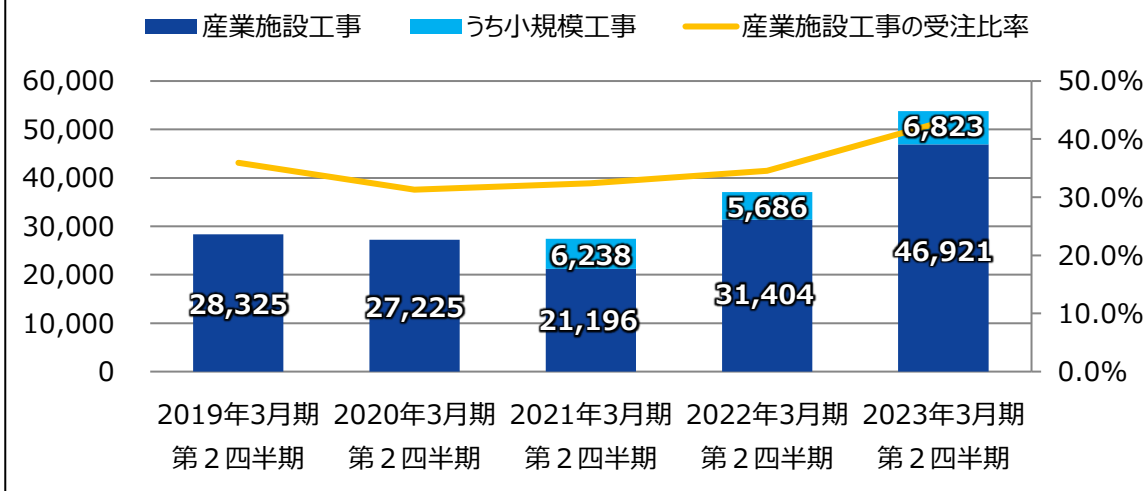
(単位：百万円)

	2022年3月期			2023年3月期	前期比	
	上半期	下半期	通期	上半期	増減	増減率
産業施設工事合計	37,090	37,543	74,633	53,744	16,654	44.9%
(受注比率%)	34.5%	49.2%	40.6%	43.0%	8.5p	—
受注工事高合計	107,423	76,245	183,668	124,966	17,542	16.3%

※工場、研究所、データセンター、物流施設を「産業施設」として区分しています。

産業施設工事の受注工事高の推移

(単位：百万円)



- 企業の設備投資意欲の回復を背景に、工場の新設やデータセンターの増設などが増加傾向にあります。当期におきましても、これらの案件を複数受注しています。
- 上記の結果、直近5年で最も高い受注工事高となっています。

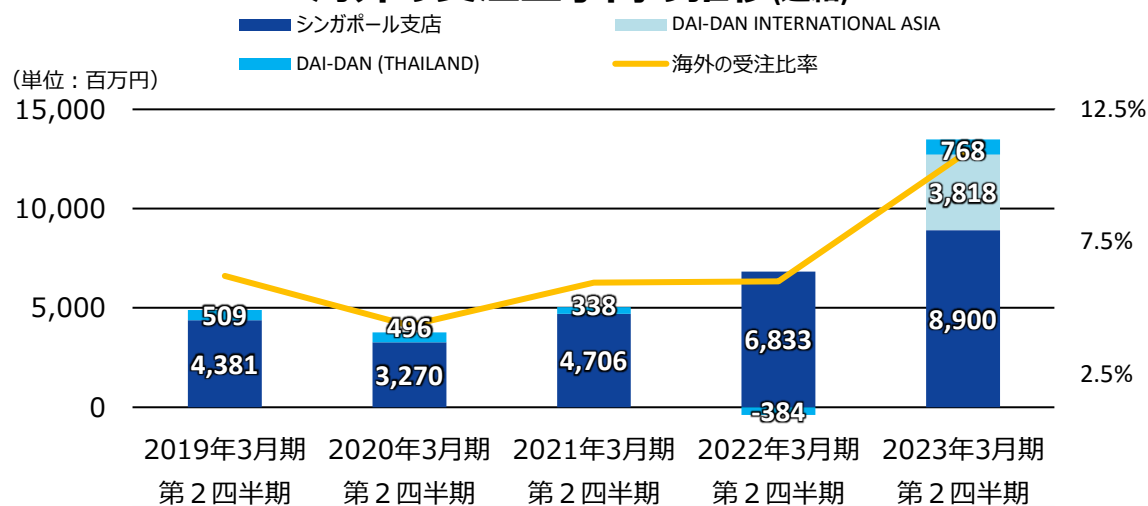
海外事業の状況

- 海外事業は、シンガポール（支店、およびDAI-DAN INTERNATIONAL ASIA PTE.LTD.）、タイ（DAI-DAN (THAILAND) Co.,LTD.）、およびベトナム（DAI-DAN (VIETNAM) Co.,LTD.）を拠点に活動しています。
- 新たな海外拠点として、今年度、台湾大暖股份有限公司（台湾）を設立しました。

（単位：百万円）

	2022年3月期			2023年3月期	前期比	
	上半期	下半期	通期	上半期	増減	増減率
海外工事合計（連結）	6,449	4,937	11,386	13,486	7,037	109.1%
（受注比率%）	6.0%	6.5%	6.2%	10.8%	4.8p	-
受注工事高合計	107,423	76,245	183,668	124,966	17,542	16.3%

海外の受注工事高の推移(連結)



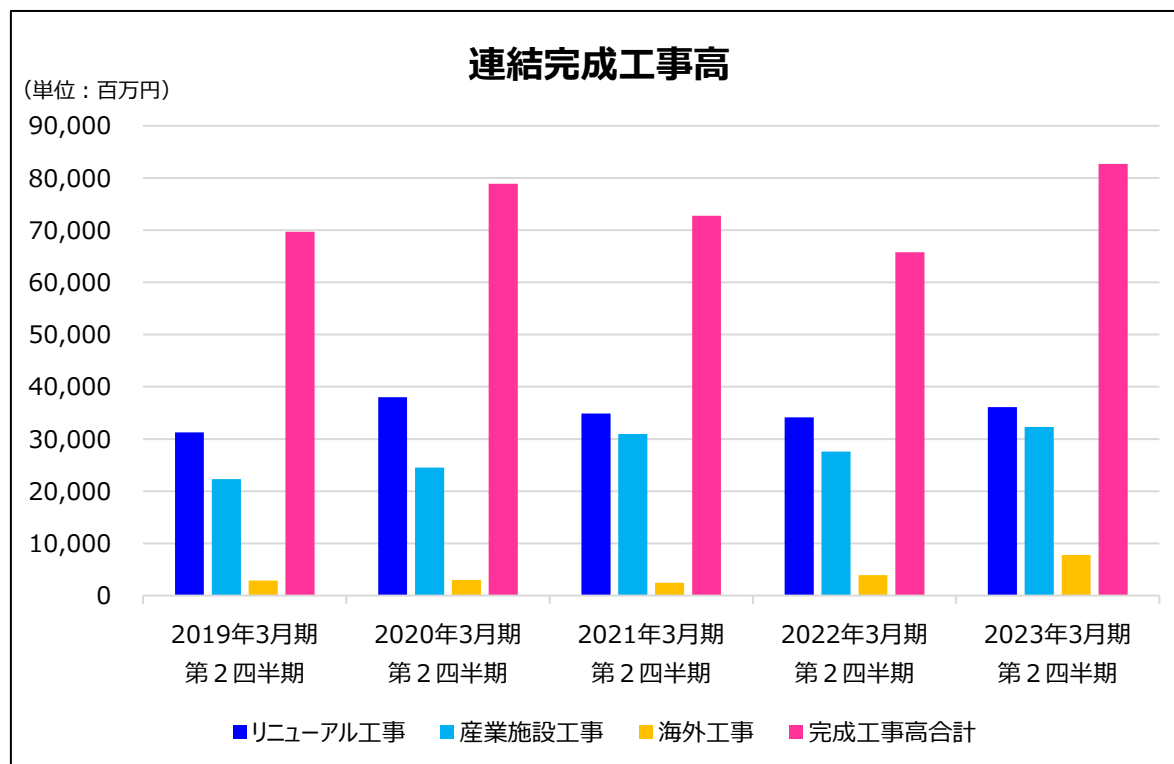
- シンガポールは、新型コロナウイルスと共生する「ウィズコロナ」路線への移行により、受注活動と現場運営ともコロナ前の状況に戻りつつあります。
- 当期はシンガポールにおいて大型リゾート施設の熱源工事の受注があり、前期比で倍増しました。

※2022年3月期第2四半期のDAI-DAN (THAILAND) のマイナス表記は大型工事の受注取り消しによるものです。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
完成工事高合計	65,780	100.0%	82,690	100.0%	16,909	25.7%
うち(リニューアル工事)	34,125	51.9%	36,092	43.6%	1,966	5.8%
(産業施設工事)	27,565	41.9%	32,305	39.1%	4,740	17.2%
(海外工事)	3,931	6.0%	7,794	9.4%	3,863	98.3%

※リニューアル工事、産業施設工事、海外工事は、それぞれの工事種類ごとの集計であるため重複しているものも含まれます。

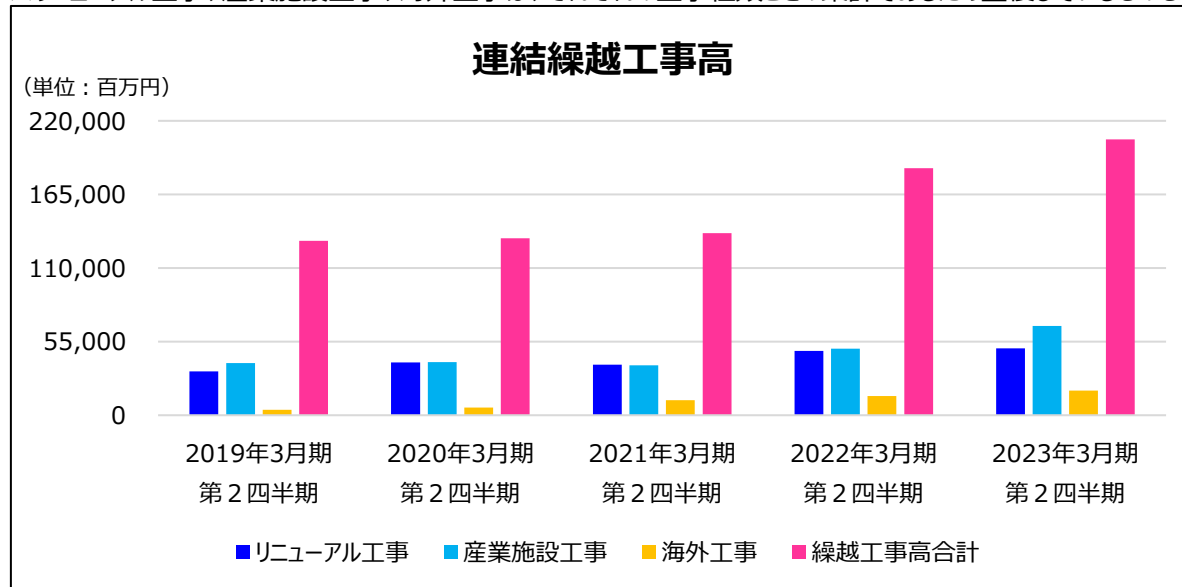


- リニューアル工事、産業施設工事および海外工事の増加は、主に工場、データセンターの大型工事が進捗したことによります。特に海外工事は倍増しました。
- 上記のほかにも、空港や医療関連施設などの大型工事が進捗したことにより、当期の完成工事高は増加しました。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
期首繰越工事高	143,043	—	163,782	—	20,738	14.5%
受注工事高	107,423	—	124,966	—	17,542	16.3%
完成工事高	65,780	—	82,690	—	16,909	25.7%
繰越工事高	184,685	100.0%	206,057	100.0%	21,371	11.6%
うち (リニューアル工事)	48,055	26.0%	49,925	24.2%	1,870	3.9%
(産業施設工事)	49,781	27.0%	66,699	32.4%	16,918	34.0%
(海外工事)	14,384	7.8%	18,531	9.0%	4,146	28.8%
うち下期完成予定	74,743	—	80,256	—	5,513	7.4%

※リニューアル工事、産業施設工事、海外工事は、それぞれの工事種類ごとの集計であるため重複しているものも含まれます。



- 当期の繰越工事高は、受注工事高が完成工事高を上回り、前期と比べ増加しました。
- 当期は、過去5年間において最も多い繰越工事高があり、豊富な工事量を確保しています。
- 医療関連施設、再開発や産業施設などの大規模案件を中心に、下期以降の出来高に寄与する手持ち工事も豊富に抱えています。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	増減	増減率
受注工事高	4～6月	44,698	66,712	22,014	49.3%
	7～9月	62,725	58,253	▲4,471	▲7.1%
	4～9月	107,423	124,966	17,542	16.3%
完成工事高	4～6月	27,257	35,342	8,085	29.7%
	7～9月	38,523	47,348	8,825	22.9%
	4～9月	65,780	82,690	16,909	25.7%
営業利益	4～6月	528	818	289	54.7%
	7～9月	2,240	2,832	592	26.4%
	4～9月	2,768	3,650	881	31.8%

- 4～6月の業績につきましては、再開発や産業施設案件を順調に獲得し、受注工事高は前期比で増加しました。前期からの手持ち工事も順調に進捗したことから、完成工事高、営業利益ともに前期比で増加しました。
- 7～9月の業績につきましては、前期の大型案件受注の反動減により、受注工事高は前期比で減少したものの、引き続き手持ち工事が順調に進捗したことにより、完成工事高、営業利益ともに前期比で増加しました。

2023年3月期
第2四半期決算

2023年3月期
通期業績予想

受注環境と戦略

【現況】

- 店舗・百貨店の受注が新型コロナ前の水準に回復し、工場およびデータセンターの受注が更に拡大してきました。そして、海外事業が当初の計画以上に伸長しています。

【見通し】

- 新型コロナの影響で先送りされていた設備投資が再開されています。そして、デジタル社会を背景とした半導体関連やデータセンター、および脱炭素社会に向けたEV（電気自動車）向け部品や車載用電池関連に関しては、新型コロナ前以上の設備投資の増加が見られます。
- 製薬施設関連では、経産省のワクチン生産体制強化のための補助事業もあり、設備増強が進んでおり引き合いが増加しています。
- 産業施設案件など大型工事の受注も堅調で、施工体制と採算性を見ながら、来期以降の繰越工事の確保を受注戦略としています。

収益性について

- 資機材の高騰や労務費の上昇が見られ、受注前の原価の検討、および早期発注により影響を抑えています。厳しい状況が続いています。

連結通期業績予想

(単位：百万円)

	2022年3月期			2023年3月期			前期比 通期	
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期 (予想)	通期 (予想)	増減	増減率
受注工事高	107,423	76,245	183,668	124,966	68,034	193,000	9,332	5.1%
完成工事高	65,780	97,149	162,929	82,690	97,310	180,000	17,071	10.5%
完成工事総利益	8,857	11,866	20,723	10,364	12,636	23,000	2,277	11.0%
完成工事総利益率(%)	13.5%	12.2%	12.7%	12.5%	13.0%	12.8%	0.1p	—
営業利益	2,768	4,816	7,584	3,650	4,850	8,500	916	12.1%
営業利益率(%)	4.2%	5.0%	4.7%	4.4%	5.0%	4.7%	0.1p	—
経常利益	3,044	5,051	8,095	4,330	4,370	8,700	605	7.5%
経常利益率(%)	4.6%	5.2%	5.0%	5.2%	4.5%	4.8%	▲0.1p	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,077	3,701	5,778	3,045	2,955	6,000	222	3.8%
当期純利益率(%)	3.2%	3.8%	3.5%	3.7%	3.0%	3.3%	▲0.2p	—

業績予想の前提

- 完成工事高は、上半期において当期の出来高に寄与する受注が好調だったことを受け、前回公表の175,000百万円から5,000百万円増の180,000百万円となる見通しです。
- 受注工事高は、上半期において好調に推移しているものの、来期以降の施工体制等を勘案し、2022年5月11日に公表した業績予想からの変更はございません。
- 利益面につきましては、今後の物価・人件費の高騰等の状況を勘案し、2022年5月11日に公表した業績予想からの変更はございません。

株主還元に対する方針

- 利益配当による株主への利益還元を経営上の最重要施策と考え、健全な財務体質の構築に努めています。
- 中期経営計画における数値目標のとおり配当性向30%以上を配当方針としています。

配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第2四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年3月期	45.00	45.00	90.00	1,949	30.8%	2.7%
2022年3月期	45.00	45.00	90.00	1,935	33.3%	2.5%
2023年3月期 (予想)	45.00	55.00	100.00	—	35.7%	—

- 当社は2023年3月4日に創業120周年を迎えます。これもひとえに株主の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。
つきましては、これまでご支援いただきました株主の皆様へ感謝の意を表すため、今年度における当社の配当金は、普通配当90円に創業120周年記念配当10円を加え、1株につき年間100円（中間配当45円、期末配当55円）とさせていただきます。

自己株式取得について

- 株主還元及び資本効率の向上を目的とし、適宜検討してまいります。

2022年3月期
第2四半期決算説明

中期経営計画の 進捗状況

〈整えるステージ〉 FY2021-2023

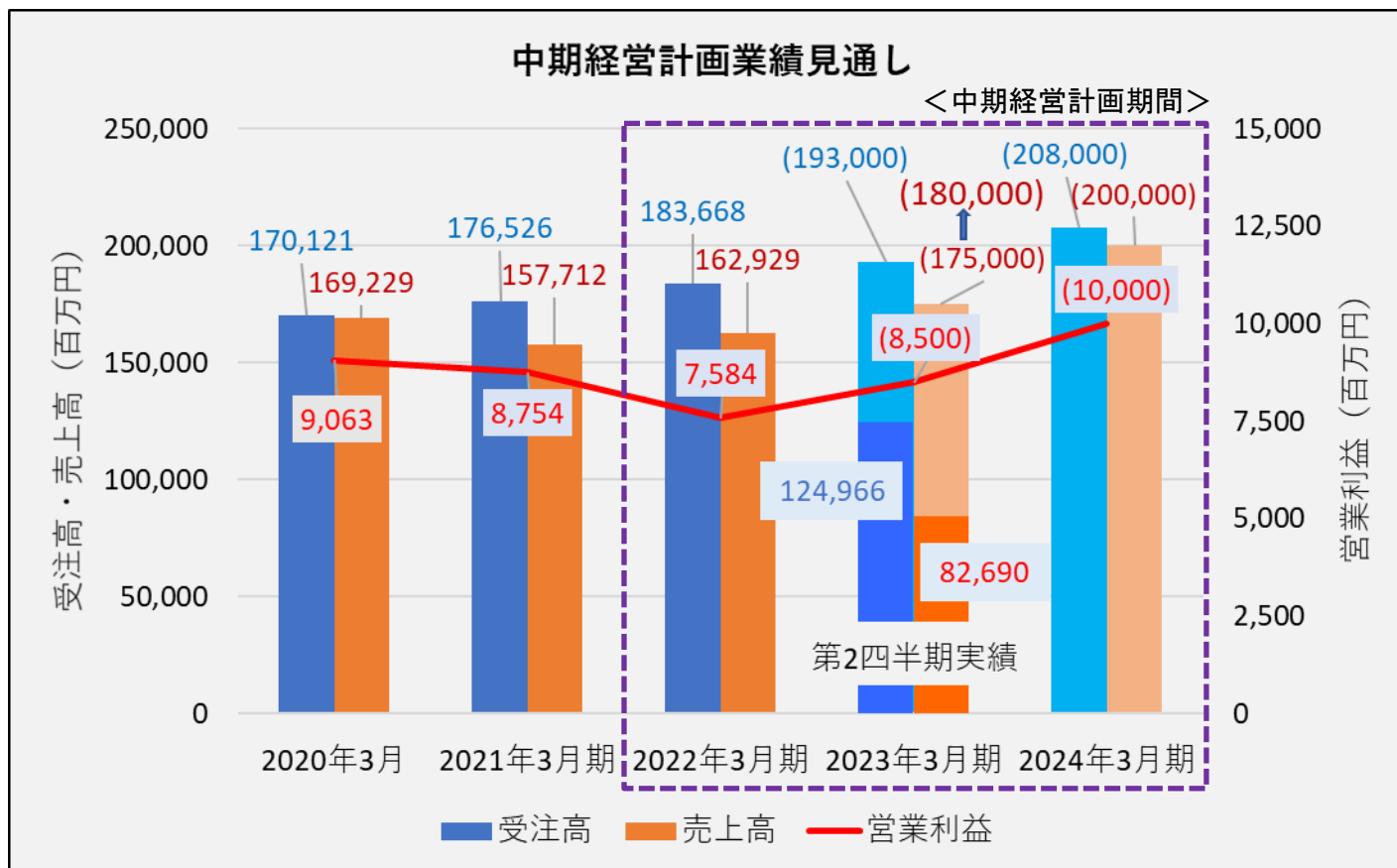
中期経営計画 《整えるステージ》の戦略と施策

- 長期ビジョン2030に向け、国内外の基盤を整備強化する《整えるステージ》です。
- 連結売上高の拡大に向けて、新規事業にもチャレンジし、グループ体制を整えます。
- 『空間価値創造企業』を目指し、広くお客さまに価値を届けていきます。

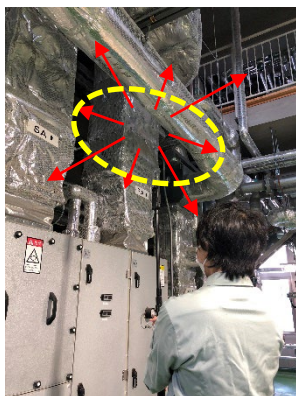
事業戦略	《整えるステージ》の戦略 FY2021-2023	施策の実施状況
基幹事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業施設工事の拡大 ・ ストックビジネスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子デバイス工場、データセンターなど大型化が進む産業施設への技術者の適正配置 ・ 子会社と連携した積極的な保守メンテナンスの受注による顧客囲い込み
海外事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外展開の統括基盤整備 ・ 新規拠点の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各プロジェクトの営業、技術提案、品質管理を国内の本部が支援 ・ 一昨年度新規進出したベトナムにおいてコロナ禍でのリモート営業を強化
技術力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場力の強化 ・ ZEB & IoT事業の拡大 	<p>「サステナビリティへの取り組み」にて詳細説明</p>
新規事業の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生医療の実用化への貢献 ・ 環境負荷低減ビジネスの推進 	

中期経営計画の進捗 <受注高・売上高・営業利益>

- 中期経営計画《整えるステージ》は、目標達成に向け施策を推進
 最終年度 2024年3月期目標 売上高2,000億円 営業利益100億円 に向け着実に受注を拡大
 するとともに、今期の売上高も上積み
 新規採用増を継続するとともに、生産性向上のためDXを推進



Construction Visualizer 4D



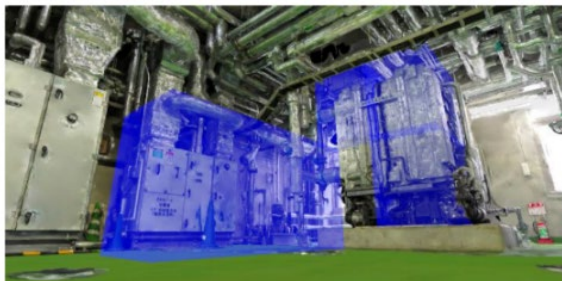
全方位カメラで現場を撮影



カメラを中心とした
全方位の映像を一度で
記録することが可能

映像データを専用ソフトで処理

現況記録を3Dモデル化



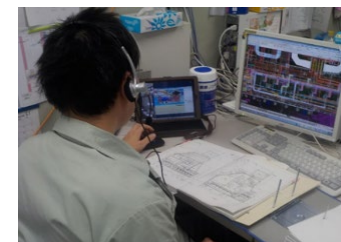
既存図面のない改修物件でも、工事計画に活用

昨年度（通期）	今年度（上半期）
12件	9件

現場支援リモートチーム



支店側の図面レビュー



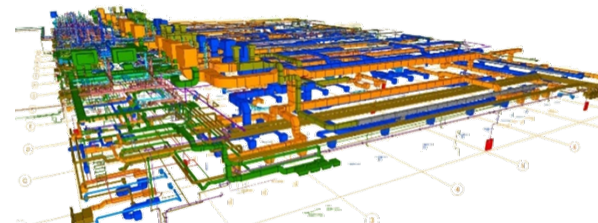
現場での参加状況

各地に散在する建設現場への本社・支店からの効率的な支援を目的として、Web会議ツール・クラウドファイルサーバー・共通CADソフトを活用し、工程管理や現場相互の図面作成など多面的支援を実施。本社から地方支店の物件へも支援。

昨年度（通期）	今年度（上半期）
339件	279件

BIMの推進

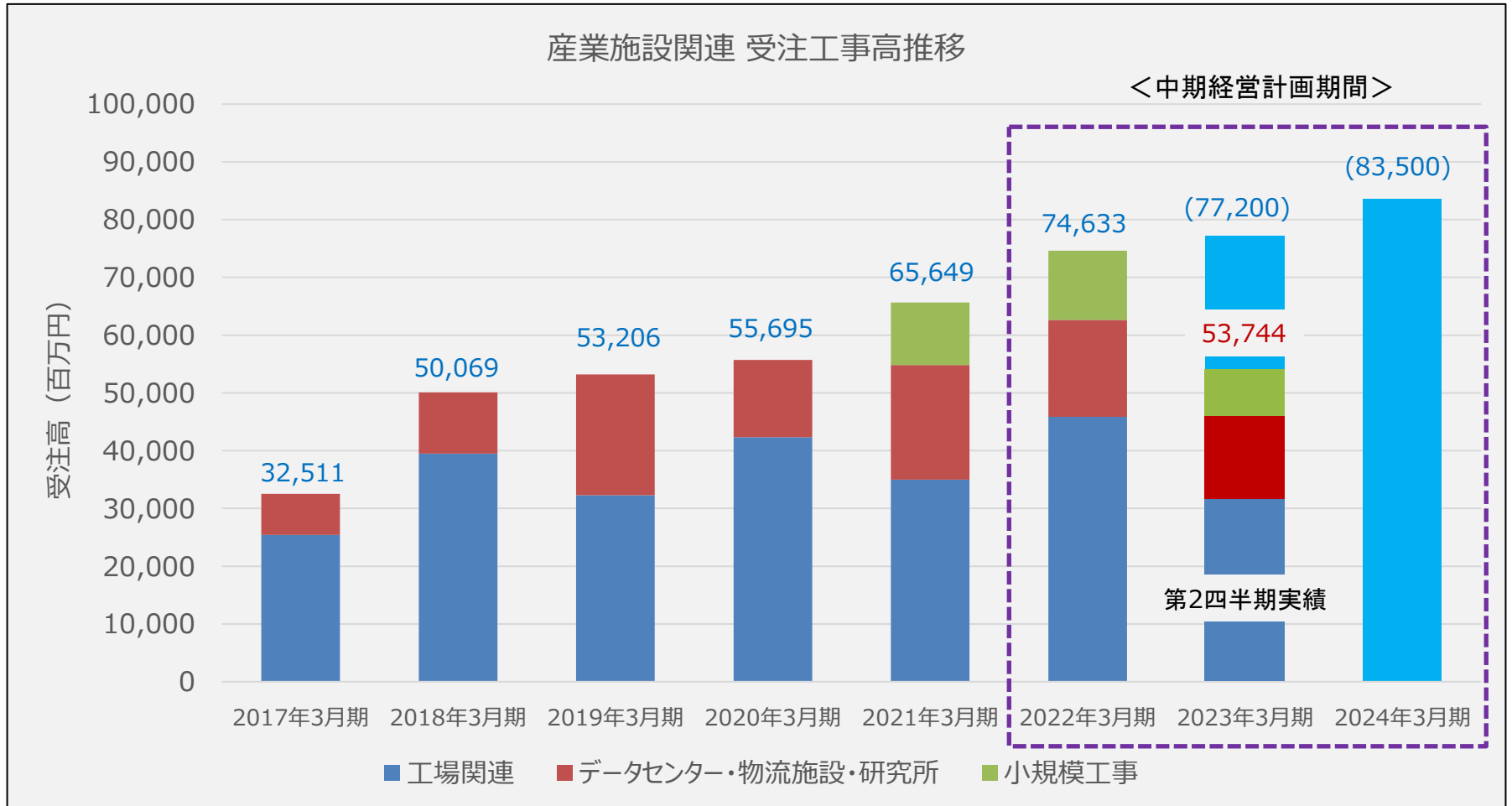
設計・施工品質の向上、業務の効率化を図るための重要な施策としてBIMの活用を推進している。
また、汎用的なBIMソフトの運用環境の整備を継続し、来期からの本格運用開始を目指す。



昨年度（通期）	今年度（上半期）
52件	57件

中期経営計画の重要施策 <産業施設工事の拡大>

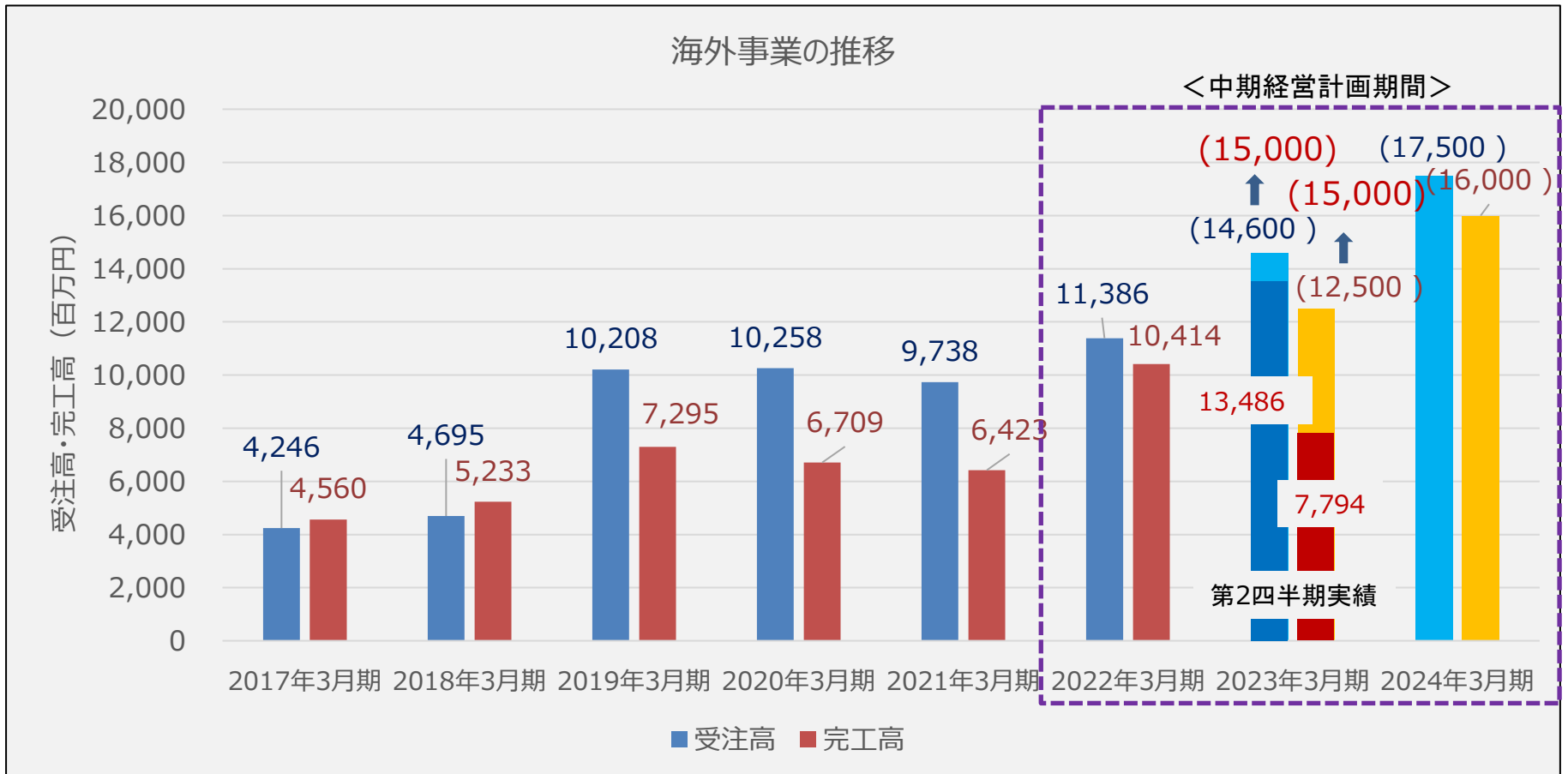
- 産業施設のうち電子デバイス系工場、データセンターの拡大が顕著
- 産業施設に特化した設計・施工体制の強化として、2022年4月に「エンジニアリング事業部」が発足したことにより受注増に貢献



※2021年3月期より工事区分の見直しを行い、産業施設関連の小規模工事を加えています。

中期経営計画の重要施策 <海外事業の強化>

- シンガポール、タイを中心に事業展開、2020年10月ベトナムに、2022年4月台湾に現地法人を設立
- 受注が好調で、完成工事高も順調に伸長 今期の当初計画を上積み
 [受注工事高：146億円⇒150億円 完成工事高：125億円⇒150億円]





















The background features a large green triangle on the left side, containing a silhouette of a person in a dynamic pose. The rest of the background is white with faint, light blue and green abstract shapes at the bottom left.

2022年3月期
第2四半期決算説明

サステナビリティへの 取り組みについて

社会課題から新規事業を生み出すCSV事業を目指し、当社技術との親和性が高い地球環境領域とライフサイエンス領域での推進項目を報告

当社のマテリアリティ項目	具体策	SDG s
脱炭素社会への貢献	ZEB関連工事の拡大	 
DXを通じた事業環境の変化への対応	ICT活用技術の現場採用	   
高品質な医療環境の実現	再生医療分野への取り組み	
研究・人材育成を通じたイノベーションと生産性向上	知的財産保有の増大	   
健康・安全に配慮した働きがいのある職場環境	従業員の満足度向上	   
協力会社・サプライヤーとのパートナーシップ	マイスター定着率向上	  

■ 2050年カーボンニュートラルに向けた社会動向

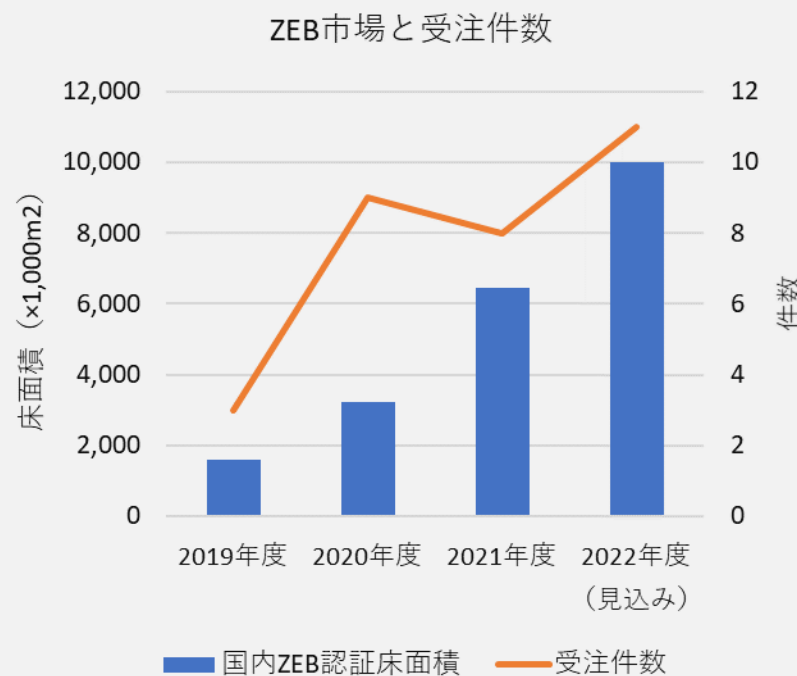
- 国際情勢の不安定さからも、エネルギー供給の平準化に貢献する**ZEBへの期待**が高まる
- ZEB政策による**省エネ基準の段階的強化**
- ZEB化を誘導する**補助事業の充実**
- 2030年の新築建築物はZEB（政府ロードマップ）
→**ZEB技術は必須**

■ ZEB受注状況

- 自社ビルのZEB化などダイダンの取り組みが評価され、**ZEBに強いダイダン**のイメージが定着、その結果受注が市場とともに増加

■ リモビス（クラウド型自動制御システム）受注状況

- ZEBは建てた後の継続的なチューニングが重要
- リモビスは**遠隔から設備を管理・制御・チューニング**できるシステム（当社開発）
- 今期**3件採用**見込み



■ 自社ビルのZEB化による脱炭素化の推進

- 2016年九州支社,
2019年四国支店,
2021年北海道支店に続き,
2022年5月に**北陸支店が竣工**
- 官公庁, 設計事務所, ゼネコン, 顧客など多数視察
→**ZEBの普及に貢献**
- 2023年12月には**新潟支店のZEB化建替えが完了**
→施工プロセスおよび働き方の**DX**を具現化

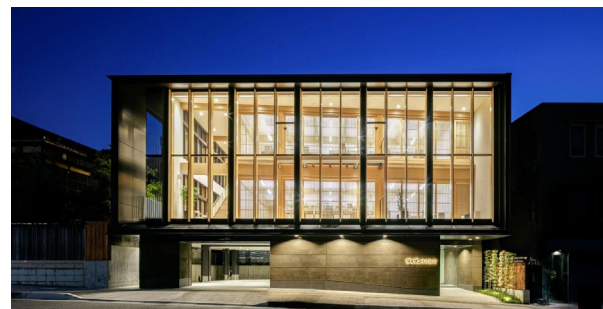
■ 自社ビルだからできる運用データの活用

- リモビスを活用した運用データの分析と
チューニングを実施中
→説得力のある**設計・施工の提案**



▲北海道支店

- 北海道省エネルギー・新エネルギー大賞
奨励賞



▲北陸支店

- 「伝統」と「革新」の融合をテーマに、
**まちなみに調和しつつ環境配慮と働きやすさの
両立**を目指した次世代オフィスビル
- 従事者の健康、快適性を増進し、知的生産性の向
上に貢献する**ウェルネスオフィス**

JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2022

ウッドデザイン賞

2022



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2022



BELS



この建物のエネルギー消費量 **64%**削減
2021年5月19日交付国土交通省告示に基づく第三者認証

■ 設備技術を活かした再生医療分野の課題解決

① 低コストで高品質な細胞加工施設の提供

→ **機器・システム販売事業**

② 細胞製造に必要な設備と体制を構築

→ **細胞製造受託事業**

• 再生医療専門子会社で上記を推進

→ **ハードとソフトの両面**で

再生医療分野に貢献

① 機器・システム販売事業

- 2030年5,500億円市場に向け、再生医療分野の**著名物件の施工実績とエンジニアリング力**で、顧客ニーズに適した施設を提案



慶應義塾大学病院
(血液 (キムリア) など)



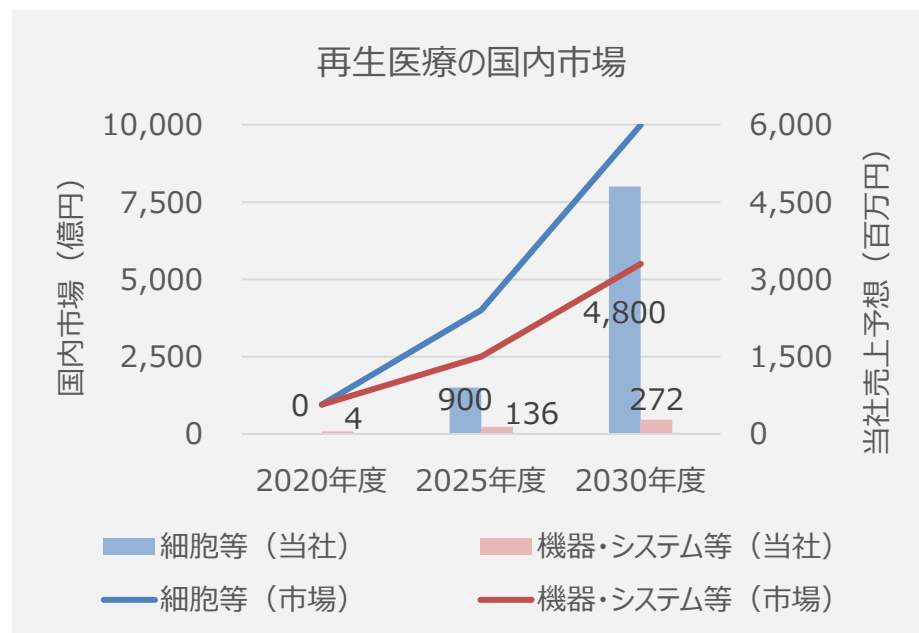
クオリプス
(心筋)



三重大学
(がん (CAR-T))

② 細胞製造受託事業

- 九州大学ベンチャーのガイアバイオメディシン社が開発した、**がん治療細胞の製造受託**を予定
 - 肺癌を対象とした第I/II相臨床試験を開始
 - 胃がんと膵がんを対象とした医師主導治験を開始





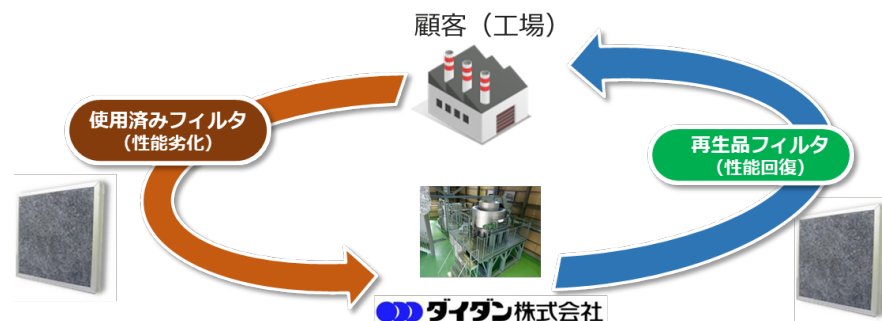
廃棄物削減 フィルタ再生事業の拡大

■ 環境問題の解決を目指したCSV事業

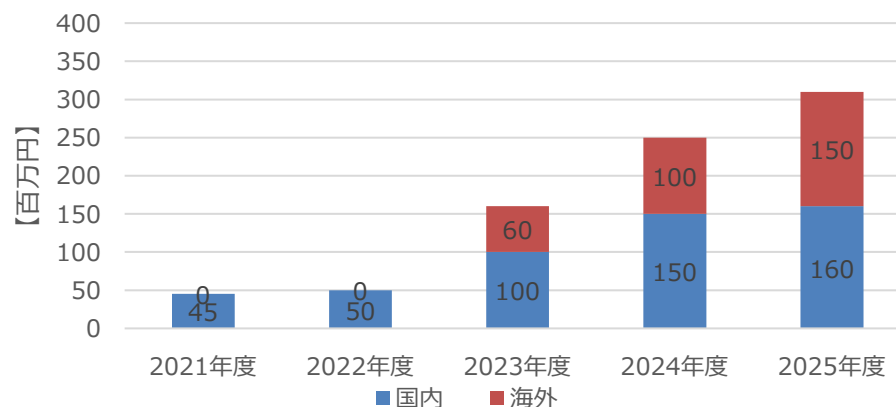
- 当社オンリーワン技術「超臨界CO2再生技術」を活用したリユースビジネス
- これまで廃棄されていた使用済みの半導体製造装置用エアフィルタを再生するサービス
- **廃棄物の削減**に貢献するだけでなく、約30%の**CO2排出削減**効果が見込める脱炭素技術

■ 国内だけでなく海外にも展開予定

- 2022年4月に台湾現地法人を設立
→**台湾での営業活動を開始**
- 国内外の事業拡大に向け、**プラントを増強**
→2023年4月より稼働見込み
- 国内の受注拡大に向け、再生実績を武器に新規顧客を開拓中



フィルタ再生サービス事業の売上計画



Environment

- TCFD提言に沿った情報開示



- ESG評価機関 FTSE スコアの向上
総合スコア 2021年:2.7 ⇒ 2022年:3.0
- FTSE Blossom Japan Relative Index 認定 (493銘柄)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

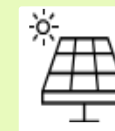
- 「ダイダンの森林づくり」協定の締結



2022年10月末現在
森づくり協定地

- 北海道
- 埼玉県
- 三重県
- 石川県
- 滋賀県
- 岡山県
- 愛媛県
- 熊本県

- 本社、支店などオフィスへのグリーン電力の導入



Social

- 健康経営優良法人2022 (大規模法人部門) を取得



- 時間外労働の削減全社プロジェクト
<SMILE 2024 Project> 発進

従業員満足と Satisfaction
意欲を高めるために Motivation
創意工夫で Idea
ゆとりと Leeway
効率を生み出す Efficiency

長時間労働是正に向けた全社プロジェクト
SMILE 2024 Project



<参考>

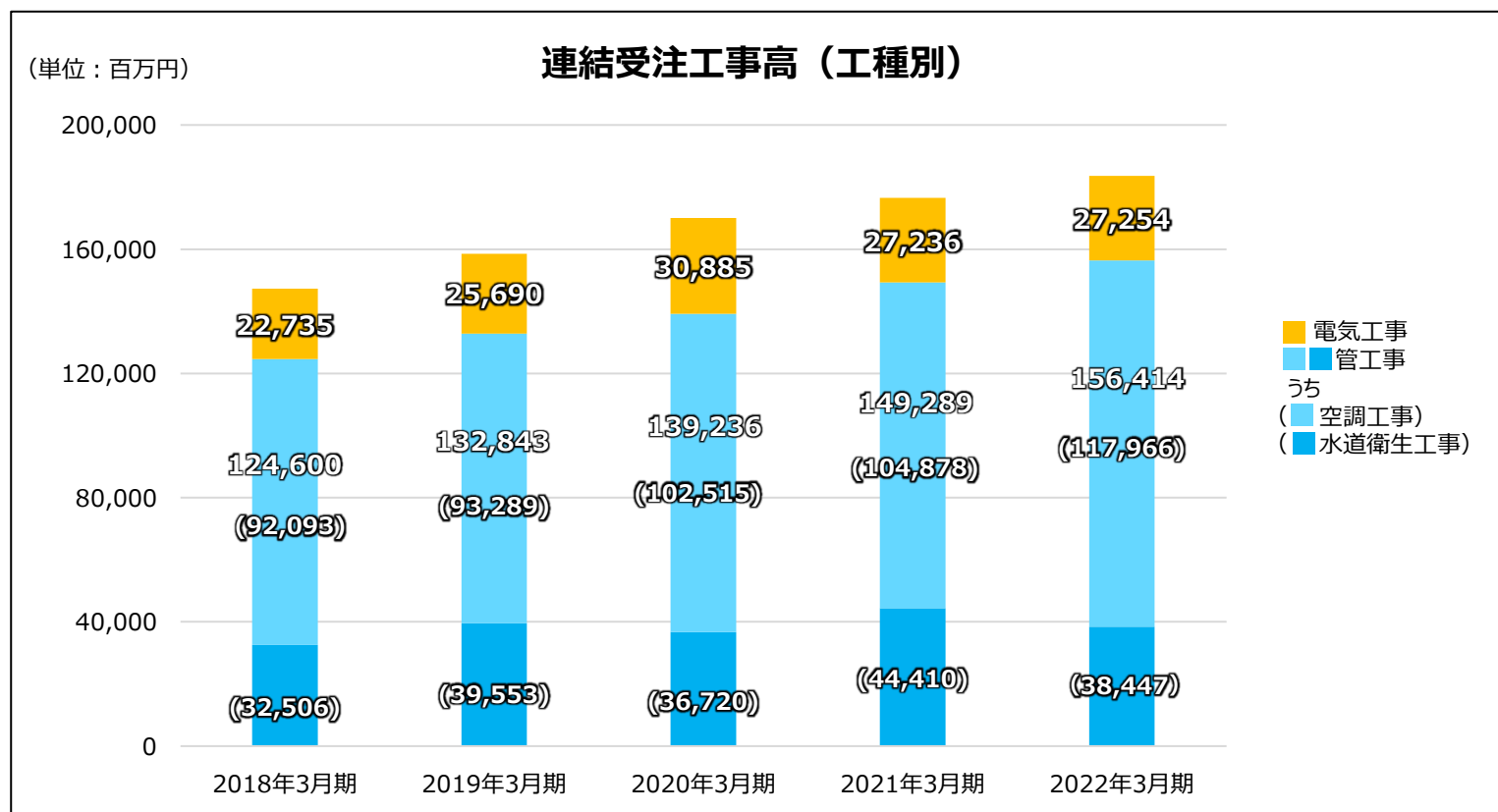
DATA FILE

〔通期・第2四半期〕

連結受注工事高（工種別）〔通期〕

(単位：百万円)

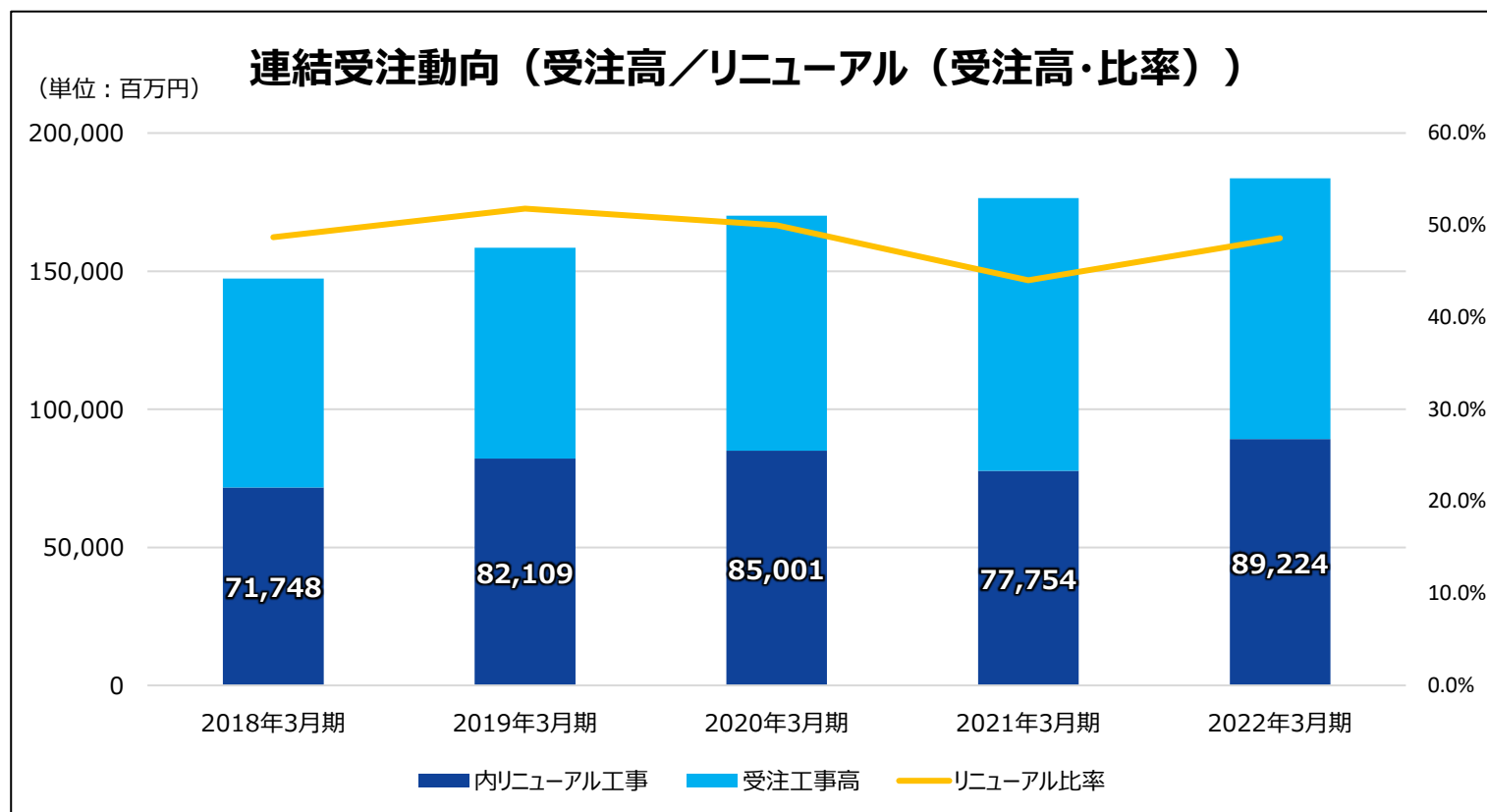
		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
電気工事		22,735	25,690	30,885	27,236	27,254
管工事	空調工事	92,093	93,289	102,515	104,878	117,966
	水道衛生工事	32,506	39,553	36,720	44,410	38,447
	小計	124,600	132,843	139,236	149,289	156,414
合計		147,335	158,533	170,121	176,526	183,668



連結受注動向（受注高／リニューアル）〔通期〕

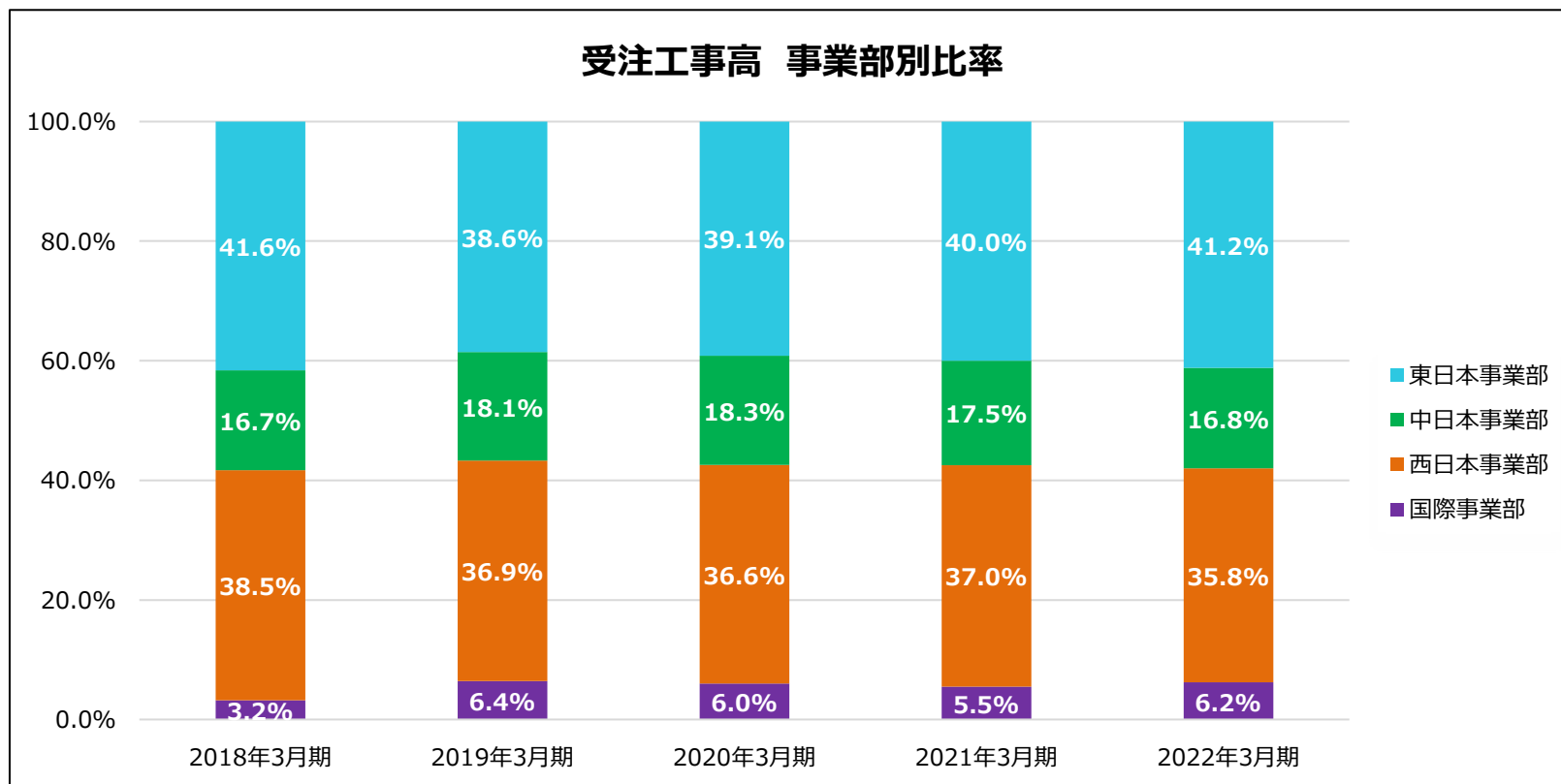
（単位：百万円）

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
受注工事高	147,335	158,533	170,121	176,526	183,668
リニューアル工事	71,748	82,109	85,001	77,754	89,224
リニューアル比率	48.7%	51.8%	50.0%	44.0%	48.6%



受注工事高比率

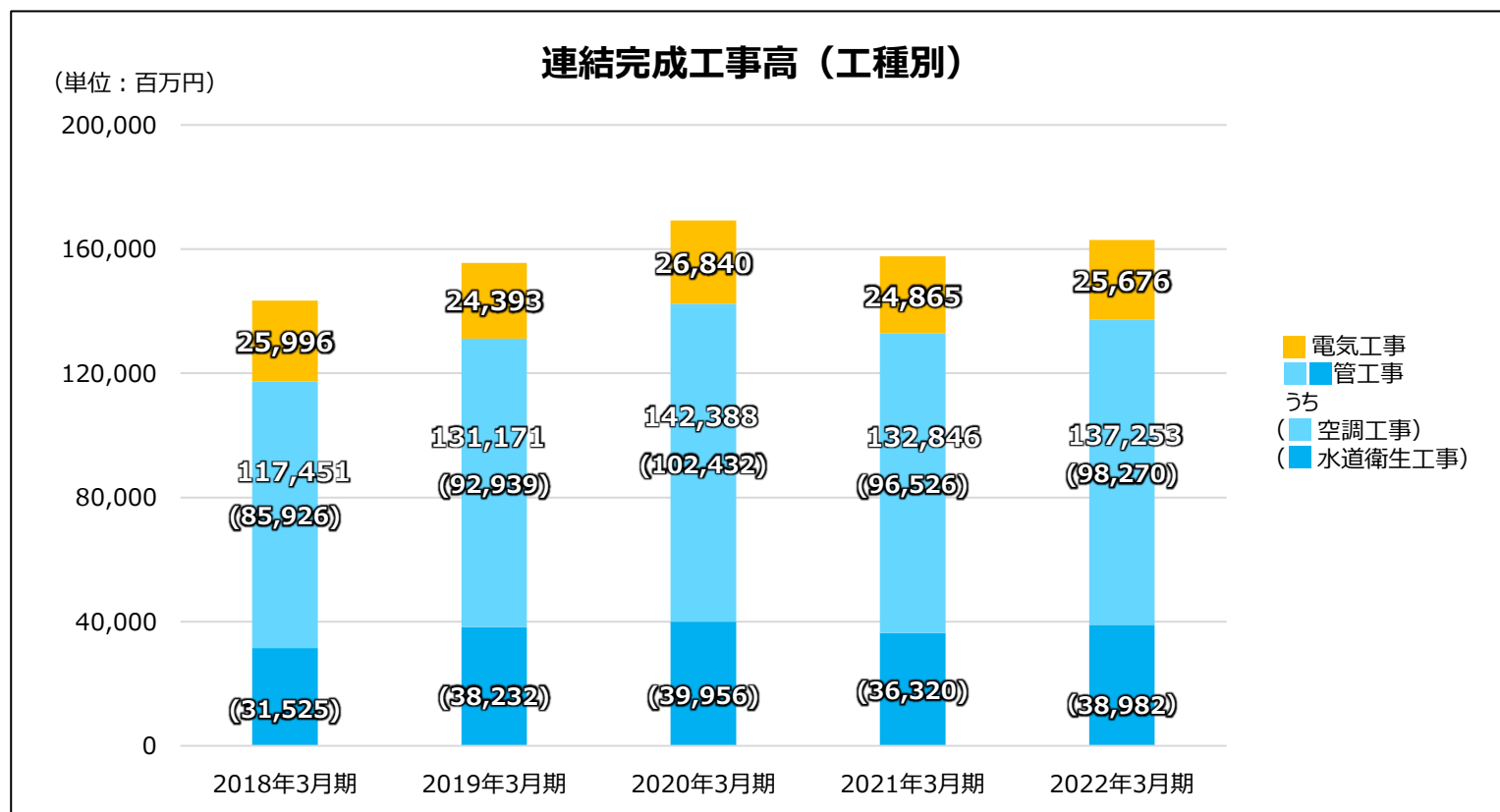
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
東日本事業部	41.6%	38.6%	39.1%	40.0%	41.2%
中日本事業部	16.7%	18.1%	18.3%	17.5%	16.8%
西日本事業部	38.5%	36.9%	36.6%	37.0%	35.8%
国際事業部	3.2%	6.4%	6.0%	5.5%	6.2%



連結完成工事高（工種別）〔通期〕

(単位：百万円)

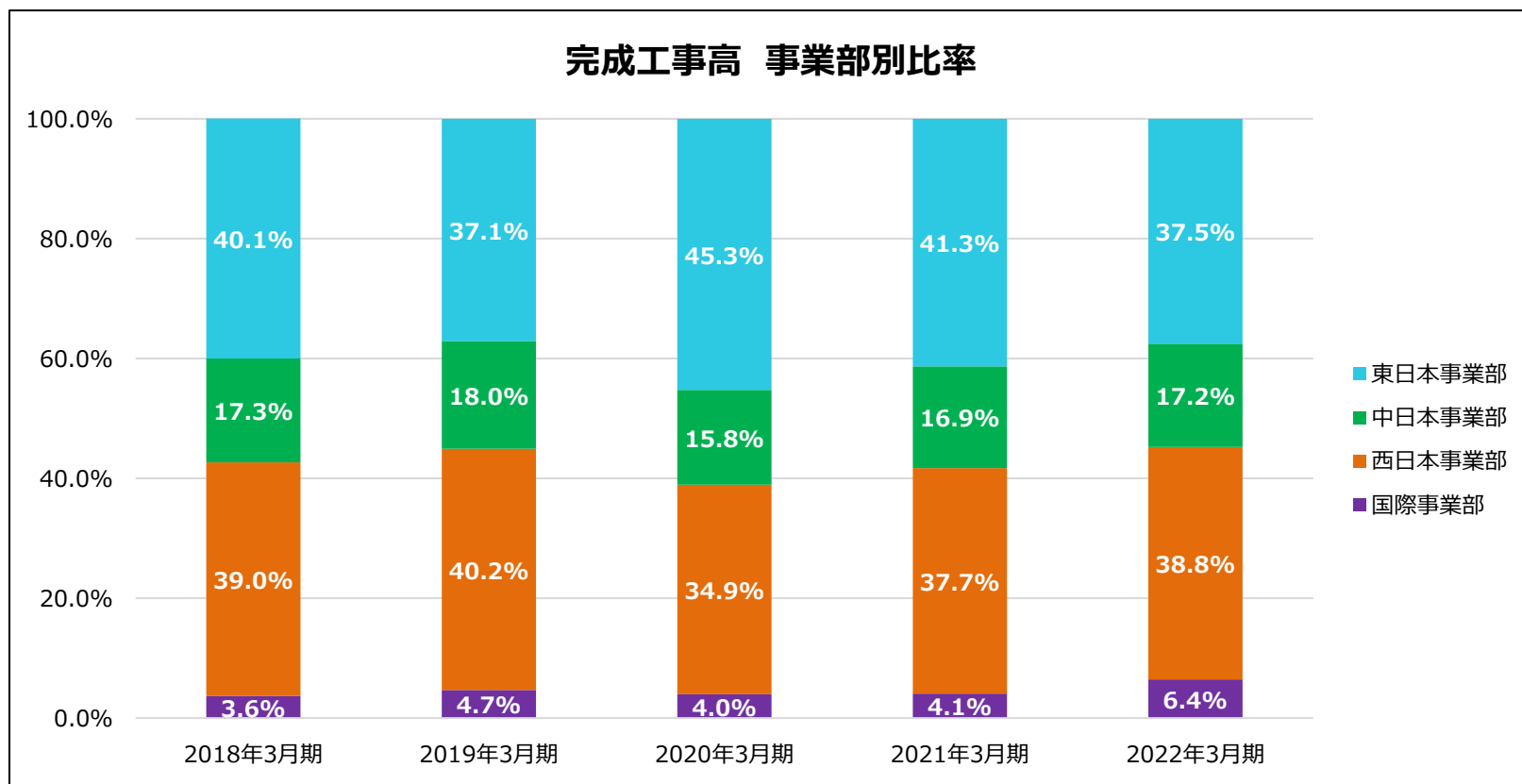
		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
電気工事		25,996	24,393	26,840	24,865	25,676
管工事	空調工事	85,926	92,939	102,432	96,526	98,270
	水道衛生工事	31,525	38,232	39,956	36,320	38,982
	小計	117,451	131,171	142,388	132,846	137,253
合計		143,448	155,565	169,229	157,712	162,929



連結事業部別完成工事高比率〔通期〕

完成工事高比率

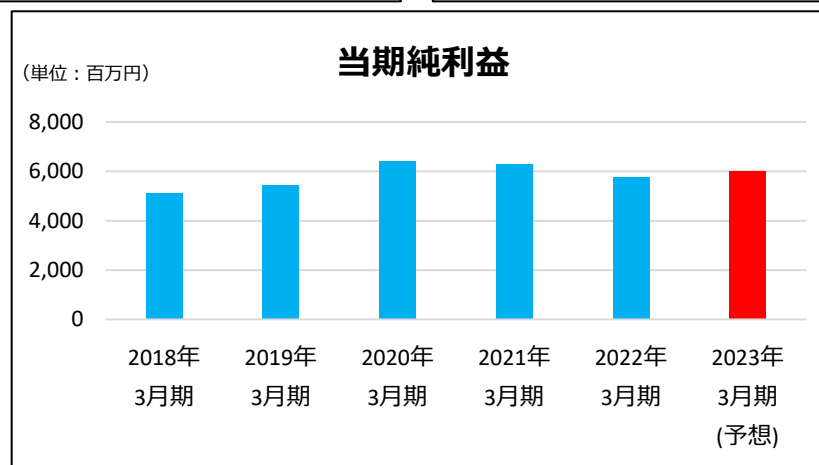
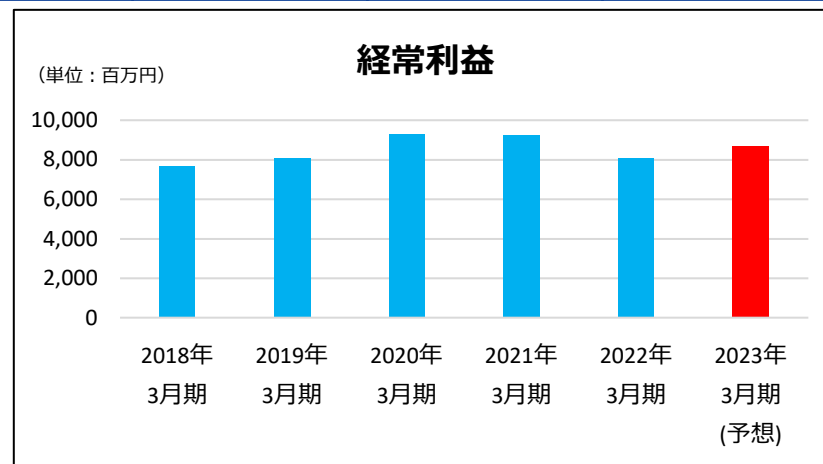
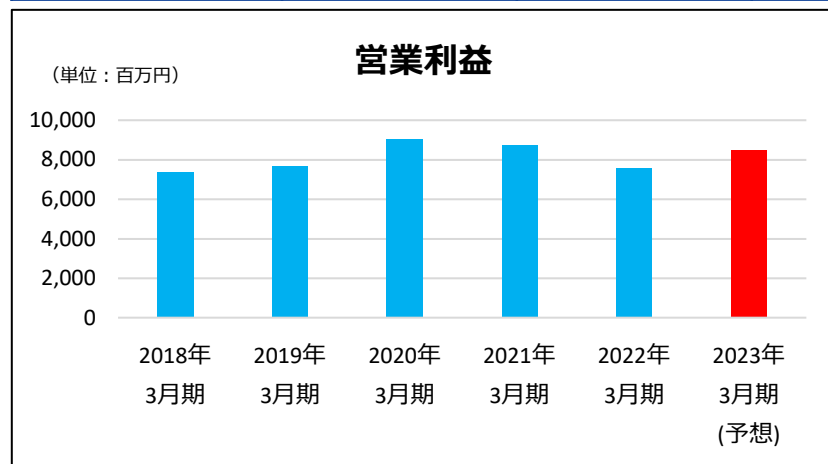
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
東日本事業部	40.1%	37.1%	45.3%	41.3%	37.5%
中日本事業部	17.3%	18.0%	15.8%	16.9%	17.2%
西日本事業部	39.0%	40.2%	34.9%	37.7%	38.8%
国際事業部	3.6%	4.7%	4.0%	4.1%	6.4%



連結業績利益（営業／經常／当期）〔通期〕

(単位：百万円)

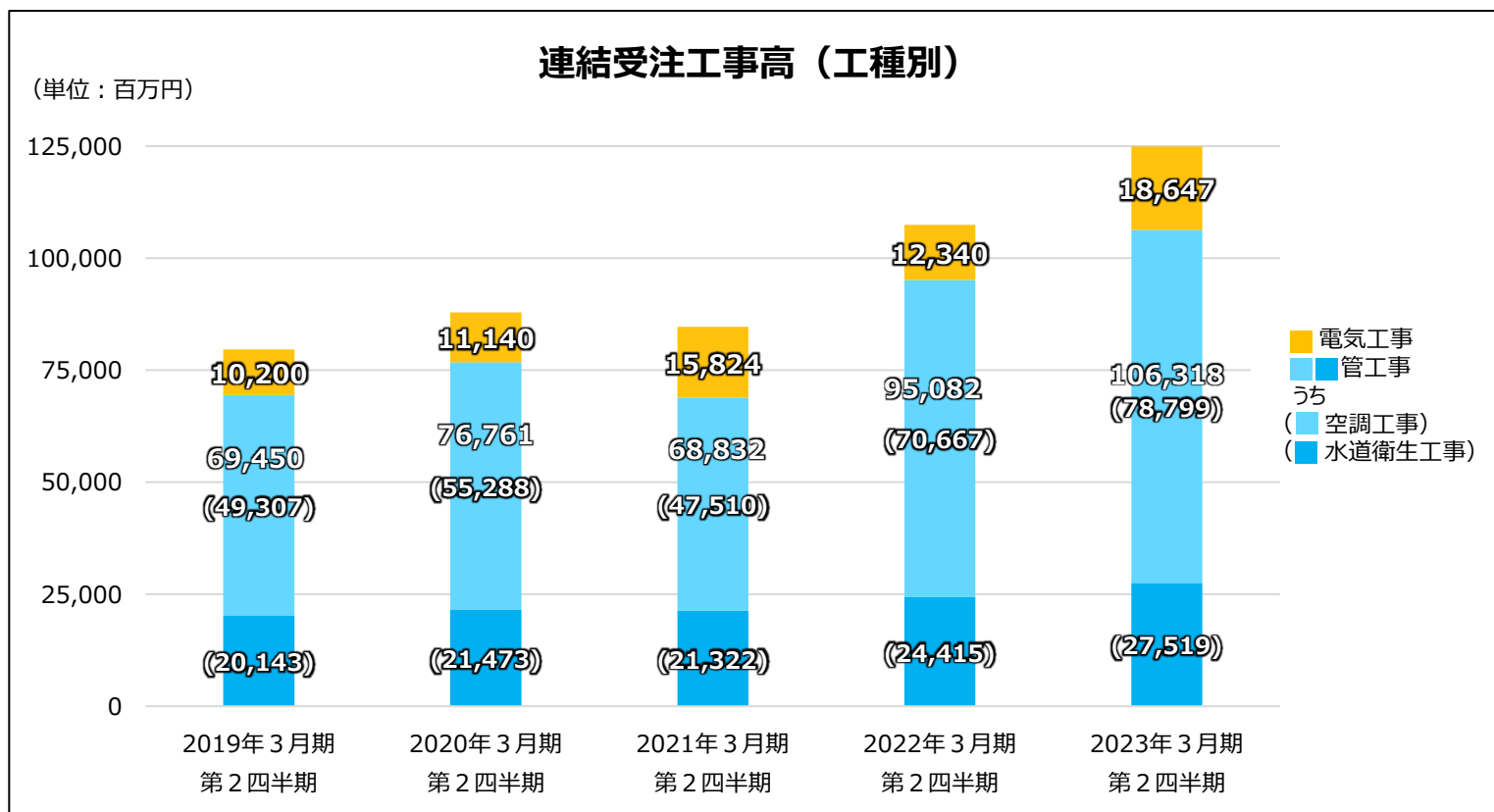
	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年3月期 (予想)
営業利益	7,385	7,661	9,063	8,754	7,584	8,500
經常利益	7,674	8,057	9,282	9,262	8,095	8,700
当期純利益	5,109	5,464	6,399	6,318	5,778	6,000



連結受注工事高（工種別）〔第2四半期〕

(単位：百万円)

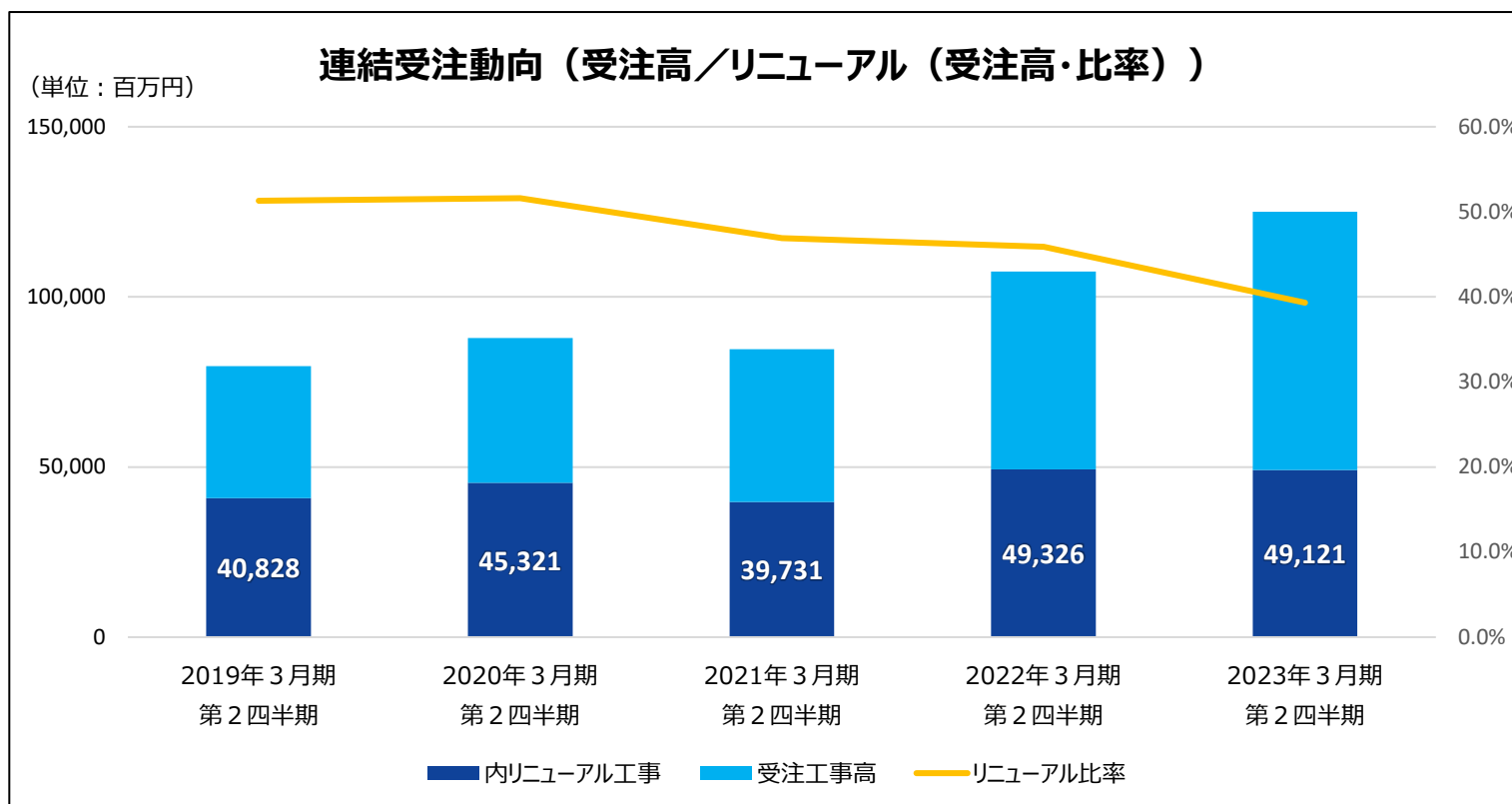
		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
電気工事		10,200	11,140	15,824	12,340	18,647
管工事	空調工事	49,307	55,288	47,510	70,667	78,799
	水道衛生工事	20,143	21,473	21,322	24,415	27,519
	小計	69,450	76,761	68,832	95,082	106,318
合計		79,650	87,902	84,656	107,423	124,966



連結受注動向（受注高／リニューアル）〔第2四半期〕

(単位：百万円)

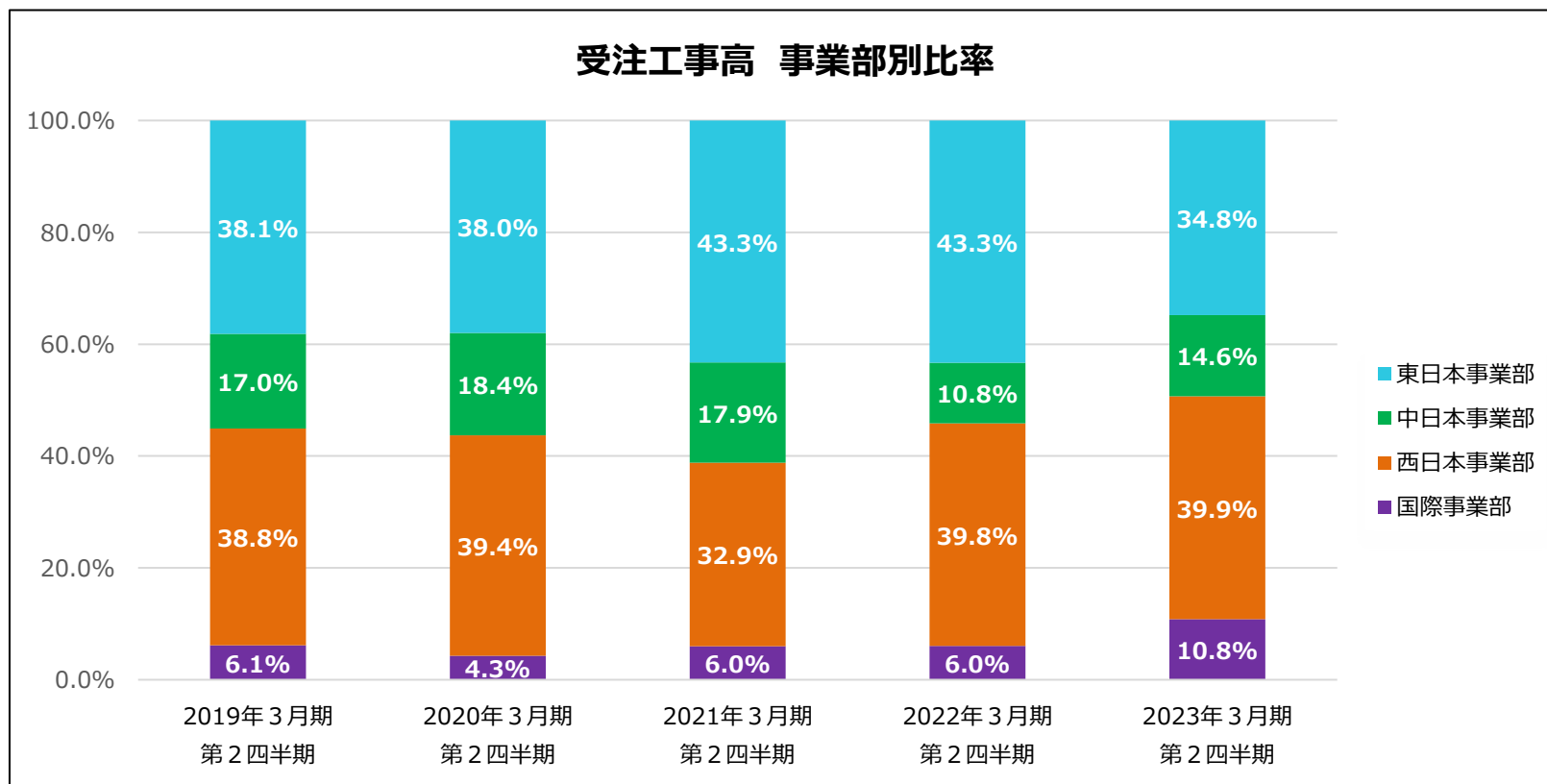
	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
受注工事高	79,650	87,902	84,656	107,423	124,966
リニューアル工事	40,828	45,321	39,731	49,326	49,121
リニューアル比率	51.3%	51.6%	46.9%	45.9%	39.3%



連結事業部別受注工事高比率〔第2四半期〕

受注工事高比率

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
東日本事業部	38.1%	38.0%	43.3%	43.3%	34.8%
中日本事業部	17.0%	18.4%	17.9%	10.8%	14.6%
西日本事業部	38.8%	39.4%	32.9%	39.8%	39.9%
国際事業部	6.1%	4.3%	6.0%	6.0%	10.8%



連結完成工事高（工種別）〔第2四半期〕

(単位：百万円)

		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
電気工事		11,275	12,029	10,400	10,418	13,970
管工事	空調工事	41,139	47,963	43,648	38,630	49,091
	水道衛生工事	17,262	18,924	18,685	16,732	19,628
	小計	58,402	66,888	62,334	55,362	68,720
合計		69,677	78,917	72,734	65,780	82,690

連結完成工事高（工種別）

(単位：百万円)

100,000

75,000

50,000

25,000

0

2019年3月期
第2四半期

2020年3月期
第2四半期

2021年3月期
第2四半期

2022年3月期
第2四半期

2023年3月期
第2四半期

11,275

58,402

(41,139)

(17,262)

12,029

66,888

(47,963)

(18,924)

10,400

62,334

(43,648)

(18,685)

10,418

55,362

(38,630)

(16,732)

13,970

68,720

(49,091)

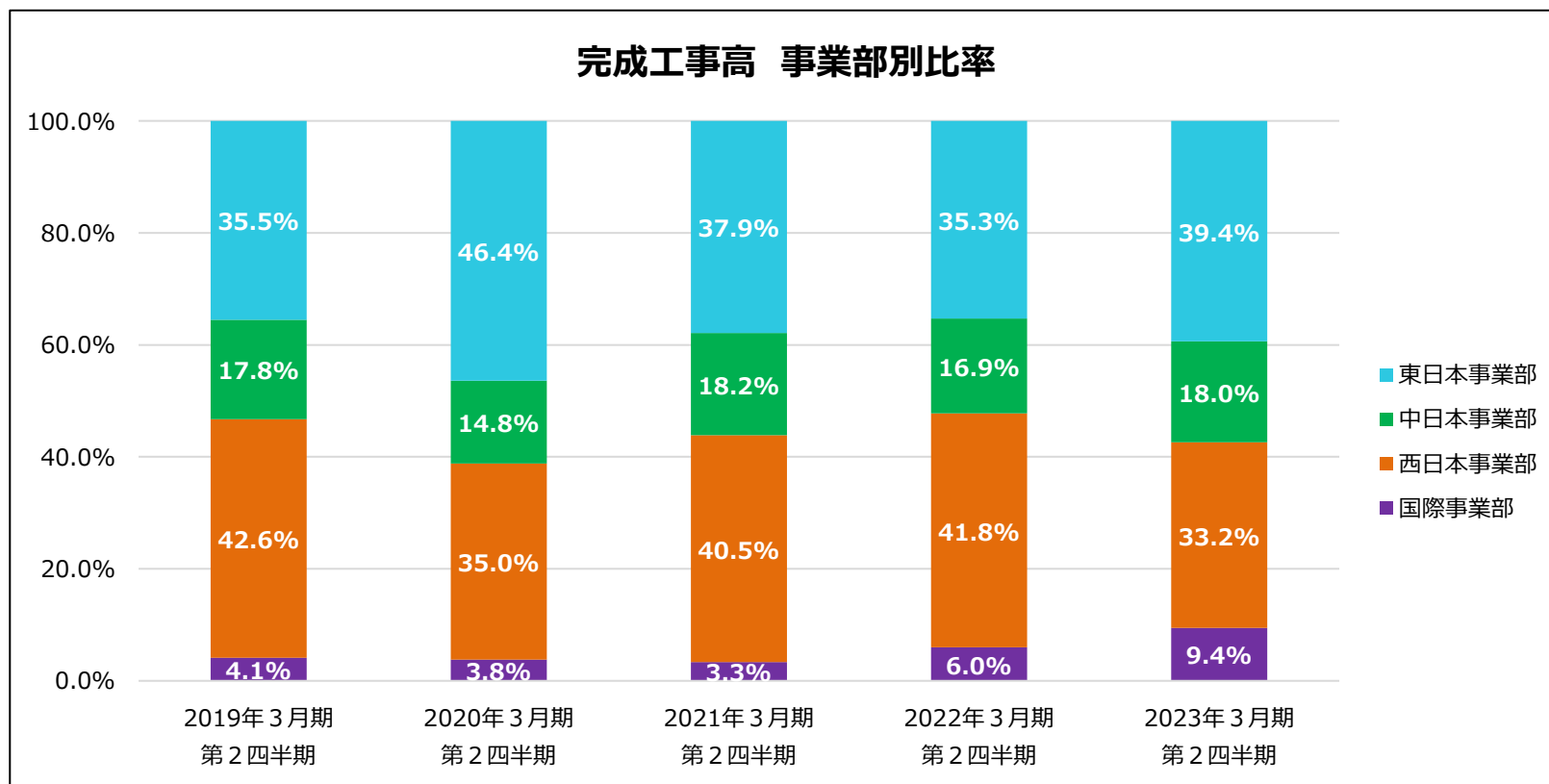
(19,628)

■ 電気工事
■ 管工事
うち
■ (空調工事)
■ (水道衛生工事)

連結事業部別完成工事高比率〔第2四半期〕

完成工事高比率

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
東日本事業部	35.5%	46.4%	37.9%	35.3%	39.4%
中日本事業部	17.8%	14.8%	18.2%	16.9%	18.0%
西日本事業部	42.6%	35.0%	40.5%	41.8%	33.2%
国際事業部	4.1%	3.8%	3.3%	6.0%	9.4%

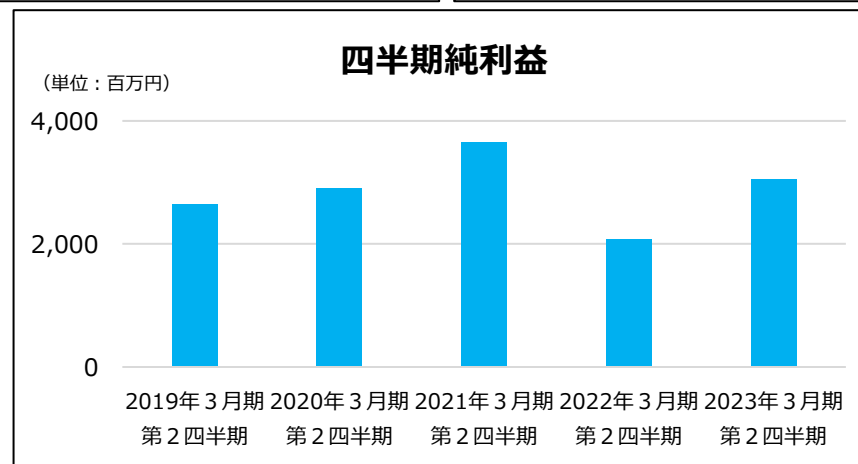
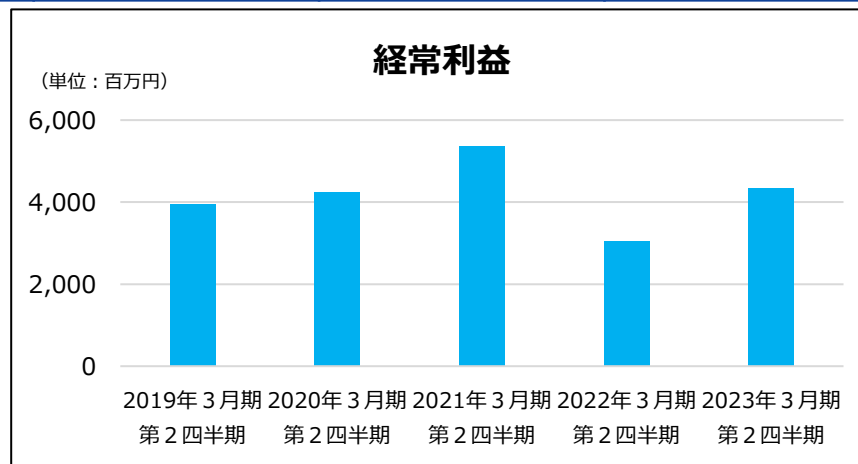
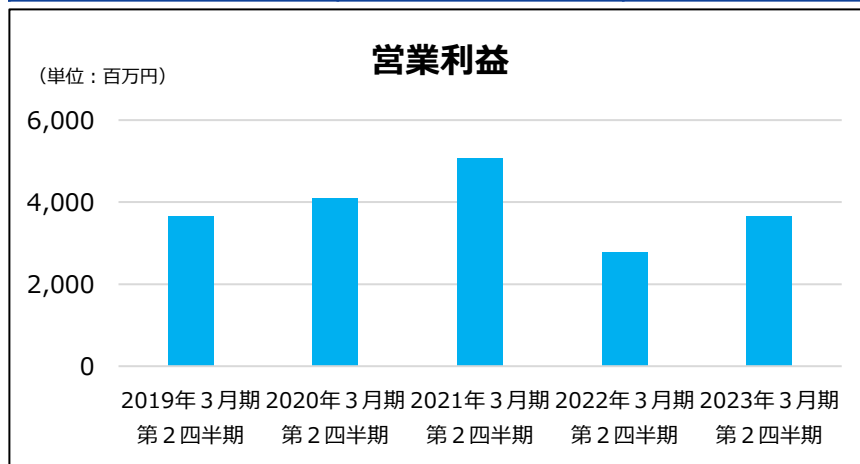


連結業績利益（営業／經常／四半期）〔第2四半期〕



(単位：百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
営業利益	3,649	4,091	5,070	2,768	3,650
經常利益	3,939	4,230	5,366	3,044	4,330
四半期純利益	2,645	2,897	3,654	2,077	3,045



免責事項

当社が開示する今後の計画、戦略などの将来の業績に関する見通しは、発表時点で合理的であると判断する前提に基づき作成しています。従って、様々な要因により、実際の業績が予想と異なる結果になる場合があります。

I Rに関する問合せ先

経営企画室 コーポレートコミュニケーション部：電話 03-5276-4568

〒102-8175 東京都千代田区富士見2-15-10